

資源株ファンド 通貨選択シリーズ ＜ブラジルリアル・コース＞(毎月分配型)

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第62期 (決算日2015年 1 月19日) 第63期 (決算日2015年 2 月17日) 第64期 (決算日2015年 3 月17日)
第65期 (決算日2015年 4 月17日) 第66期 (決算日2015年 5 月18日) 第67期 (決算日2015年 6 月17日)

作成対象期間 (2014年12月18日～2015年6月17日)

第67期末 (2015年6月17日)	
基準価額	3,292円
純資産総額	51,414百万円
第62期 ～ 第67期	
騰落率	2.5%
分配金 (税込み) 合計	600円

(注) 騰落率は分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は四捨五入して表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書 (全体版) に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書 (全体版) に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書 (全体版) は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

＜運用報告書 (全体版) の閲覧・ダウンロード方法＞

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書 (全体版) は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「資源株ファンド 通貨選択シリーズ＜ブラジルリアル・コース＞ (毎月分配型)」は、2015年6月17日に第67期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として世界の資源株に実質的に投資を行ない、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行なっております。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
http://www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

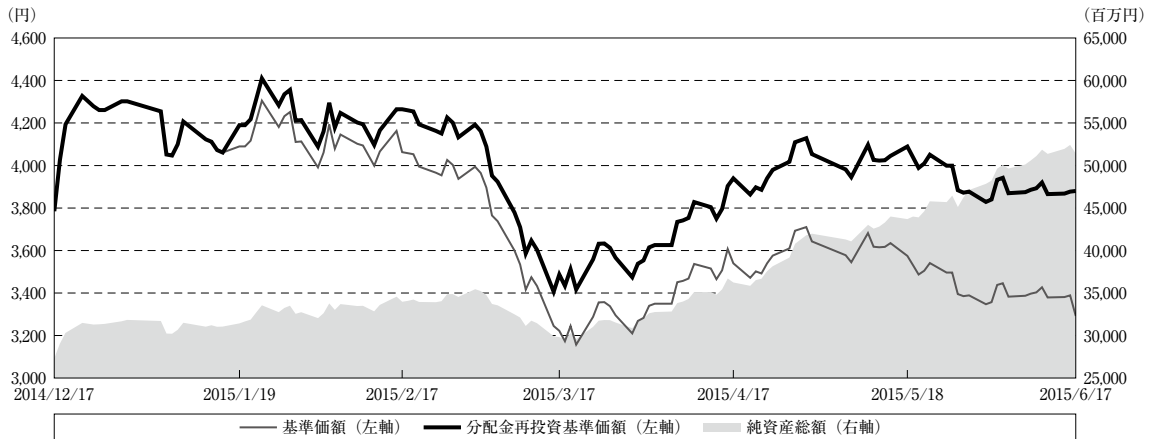
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2014年12月18日～2015年6月17日)



第62期首：3,785円

第67期末：3,292円 (既払分配金 (税込み)：600円)

騰落率：2.5% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首 (2014年12月17日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の推移

第62期首3,785円の基準価額は、第67期末に3,292円 (分配後) となり、分配金を加味した騰落率は+2.5%となりました。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として世界の資源株に実質的に投資を行ない、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行なっております。また、原則として、ブラジルリアル買い/米ドル売りの為替取引を行なうことで、実質的にブラジルリアル建てで運用を行ないます。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・ E C B (欧州中央銀行) や日銀、中国人民銀行 (P B O C) の金融緩和政策が継続したこと。
- ・ 資源や資源関連セクターにおいて合併や買収活動が活発化したこと。
- ・ 配当や自社株買いで株主に資本を還元する企業に対する投資家からの需要 (投資) が継続したこと。
- ・ 需給バランスの好転見通しなどを背景に原油価格が底打ちしたこと。

<値下がり要因>

- ・ F R B (米国連邦準備制度理事会)における早期利上げ観測が台頭したこと、また、これを受けて主要国の国債利回りが上昇したこと。
- ・ 商品市況、特にアルミニウム、銅鉄鉱石などの価格が中国景気の減速懸念などを背景に下落したこと。
- ・ ブラジルリアルが対円で下落したこと。

1 万口当たりの費用明細

(2014年12月18日～2015年6月17日)

項 目	第62期～第67期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 20	% 0.539	(a) 信託報酬 = 作成期間の平均基準価額 × 信託報酬率
(投信会社)	(3)	(0.109)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(16)	(0.414)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受託会社)	(1)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	0	0.006	(b) その他費用 = 作成期間のその他費用 ÷ 作成期間の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷費用)	(0)	(0.003)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
合 計	20	0.545	
作成期間の平均基準価額は、3,786円です。			

(注) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券(親投資信託を除く)が支払った費用を含みません。

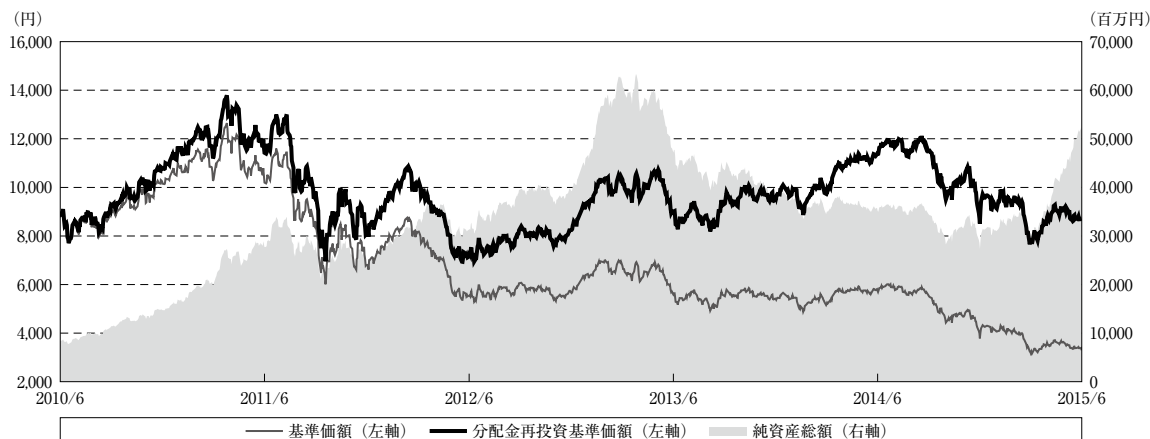
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2010年6月17日～2015年6月17日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2010年6月17日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2010年6月17日 決算日	2011年6月17日 決算日	2012年6月18日 決算日	2013年6月17日 決算日	2014年6月17日 決算日	2015年6月17日 決算日
基準価額 (円)	8,937	10,197	5,551	5,586	5,734	3,292
期間分配金合計(税込み) (円)	—	1,130	1,200	1,200	1,200	1,200
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	27.9	△36.2	22.6	27.5	△23.5
純資産総額 (百万円)	8,388	27,727	31,408	47,169	35,230	51,414

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

(2014年12月18日～2015年6月17日)

(株式市況)

作成期間中の世界の株式市場では、米国の早期利上げ観測の台頭や、これを受けての欧米主要国の国債利回りの上昇（2015年3月前半）、また、期間末にはギリシャ債務問題の不透明感が高まったことなどから、株価が下落する局面がありました。事前予想を上回る米国の経済指標が発表されたこと、ECBや日銀など主要中央銀行で金融緩和政策が継続されたこと、原油価格の底打ち感が高まったことなどを背景に、株価は上昇しました。

資源株式および資源関連株式の株価も総じて堅調となりましたが、株式市場全般を若干、下回るパフォーマンスとなりました。

商品市況については、原油価格が上昇したものの、非鉄金属や天然ガス、主要穀物、コーヒーや砂糖といった農産物を中心に総じて軟調な推移となりました。

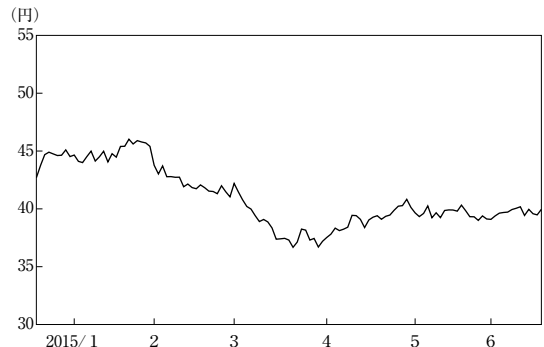
(国内短期金利市況)

無担保コール翌日物金利は、期間中、概ね0.05～0.09%の範囲で安定的に推移しました。国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.01%近辺から、2015年1月上旬には、日銀がTBの買入れ額を減額したことなどを背景に0.02%まで上昇しました。その後は、日銀がTBの買入れ額を増加したことなどを背景に再びマイナス金利に低下するなど、もみ合いで推移し、0%で期間末を迎えました。

(為替市況)

期間中におけるブラジルリアル（対円）は、右記の推移となりました。

円／ブラジルレアルの推移



当ファンドのポートフォリオ

(2014年12月18日～2015年6月17日)

(当ファンド)

当ファンドは、収益性を追求するため「ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

(ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス)

世界の資源関連株式への投資は米ドル建てで行ない、米国以外の取引所に上場している資源関連株式への投資にあたっては原則としてADR（米国預託証券）を利用しました。

作成期間中の主な投資行動としては、株価の上昇やバリュエーション（株価評価）の上昇などを受けて割安感が薄れたと判断した米国の化学銘柄や素材銘柄、農業関連銘柄などを売却、あるいは投資比率を引き下げました。また、需給バランスから今後の販売価格低迷が見込まれる米国の石炭採掘銘柄も売却しました。一方、魅力的な資産内容や現金保有比率、配当水準などを考慮して米国最大の独立系石油生産銘柄を新規に組み入れたほか、バリュエーションの観点から割安感があり投資妙味の高い石油掘削・生産銘柄など新たに組み入れました。

ブラジルリアル買い/米ドル売りの為替取引を行ないました。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

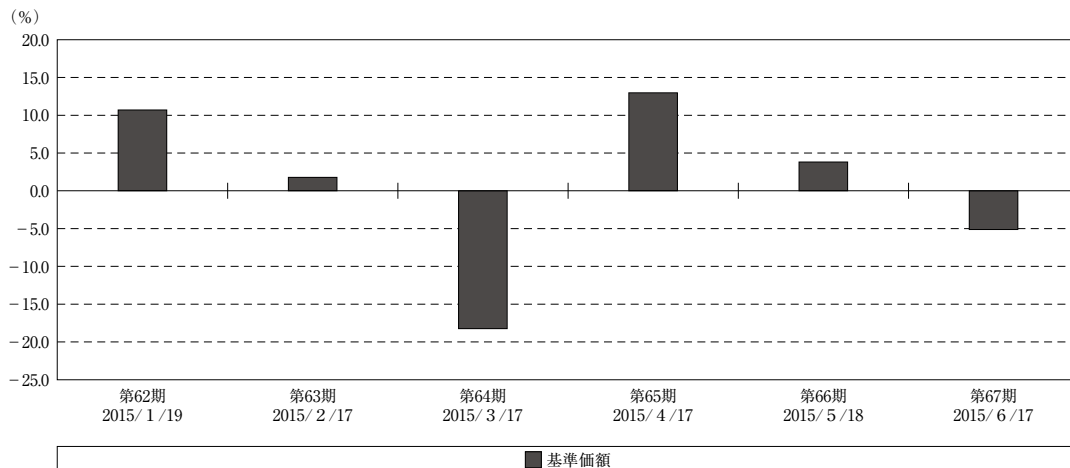
当ファンドのベンチマークとの差異

(2014年12月18日～2015年6月17日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

以下のグラフは、作成期間中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。

基準価額（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

分配金

(2014年12月18日～2015年6月17日)

第62期～第67期における分配金は、運用実績や市況動向などを勘案し、以下の通りといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第62期	第63期	第64期	第65期	第66期	第67期
	2014年12月18日 ～2015年1月19日	2015年1月20日 ～2015年2月17日	2015年2月18日 ～2015年3月17日	2015年3月18日 ～2015年4月17日	2015年4月18日 ～2015年5月18日	2015年5月19日 ～2015年6月17日
当期分配金 (対基準価額比率)	100 2.387%	100 2.402%	100 3.010%	100 2.747%	100 2.721%	100 2.948%
当期の収益	100	100	100	71	68	67
当期の収益以外	—	—	—	28	31	32
翌期繰越分配対象額	5,240	5,293	5,348	5,320	5,291	5,260

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

(注) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

今後の運用方針**(当ファンド)**

引き続き、「ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

(ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス)

不確実性は払拭されないものの、ファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)が緩やかに改善する環境下では、低コスト体質で財務内容に優れ健全な中長期の成長見通しとその基盤を確立した企業を選好した投資を継続する方針です。設備投資の削減や供給の最適化が進む間は、多くの企業で業績の伸び率が緩やかになると考えられますが、当ファンドが投資する各企業は回復シナリオの場面で設備投資と生産拡大を再開できる体制が十分に整っていると判断しています。また、財務体質が強固なことも極めて重要です。なぜなら、健全な環境が到来したとき、財務体質の強さがその企業の投資の増加ペースや生産の拡大ペースを決定づけることになるからです。原油需要は2015年後半に改善すると予想されていますが、原油の追加供給によって需要の改善による価格へのプラス影響が部分的に相殺される可能性があるかとみています。一方、銅価格も2015年後半にかけて改善すると予想されます。その背景として追加供給が限定的であることや既存の銅鉱床における銅鉱石品位(鉱石中に含まれる鉱物・金属の含有率)の低下が供給の圧迫要因となることが挙げられます。

ポートフォリオについては、低コスト体質で潜在成長力が高い資源開発企業や、資源抽出や資源加工に関する最先端の技術や方法を有する資源開発設備やサービス関連企業を中心に投資を行なう方針です。組入銘柄の評価を行なう上できわめて重要なことは徹底したファンダメンタルズ分析を行ない、最も生産コストの低い企業や、最も柔軟性の高いバランスシートを維持する企業を特定することです。これに

該当する多くの質の高い企業のバリュエーションがここ数ヶ月の間により魅力的な水準となっていることから、これらの銘柄については、当ファンドによる短期的な下落リスクの評価に見合ったペースで組入比率を引き上げていく考えです。

なお、世界の資源関連株式への投資は米ドル建てで行ない、米国以外の取引所に上場している資源関連株式への投資にあたっては原則としてADRを利用する方針です。

また、原則として、ブラジルリアル買い/米ドル売りの為替取引を行なうことで、実質的にブラジルリアル建てで運用を行なう方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

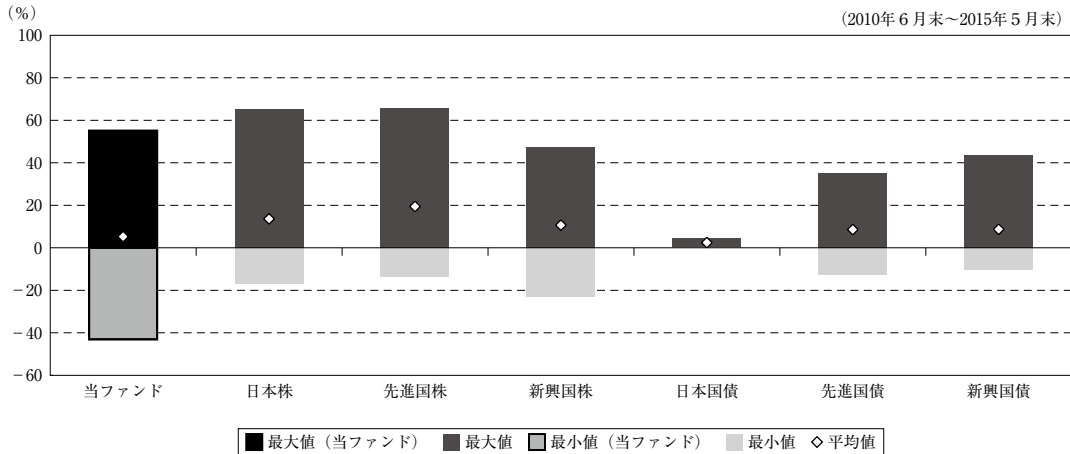
2014年12月18日から2015年6月17日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信/内外/株式
信託期間	2009年11月20日から2024年6月17日までです。
運用方針	主として、世界の資源関連企業が発行する株式を投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行います。
主要投資対象	「ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、世界の資源株に投資を行なうとともに各コースの通貨で実質的な運用を行なう投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざします。世界の米ドル建て資源関連株式（預託証券を含みます。）を実質的な投資対象とします。銘柄選択にあたっては、企業の財務データなどに基づく定量分析と業界内での競争力や経営者のマネジメント能力の評価といった定性分析を実施します。原則として、ブラジルリアル買い/米ドル売りの為替取引を行ないます。
分配方針	毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	55.1	65.0	65.7	47.4	4.5	34.9	43.7
最小値	△43.1	△17.0	△13.6	△22.8	0.4	△12.7	△10.1
平均値	5.2	13.6	19.4	10.6	2.4	8.5	8.7

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2010年6月から2015年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2010年11月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA - ボンド・パフォーマンス・インデックス国債

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガンGBI - EM グローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2015年6月17日現在)

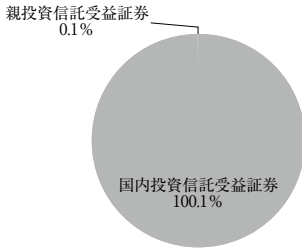
○組入上位ファンド

銘柄名	第67期末
	%
ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス	100.1
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

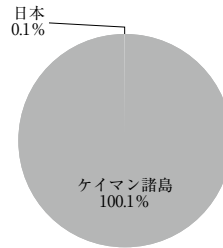
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

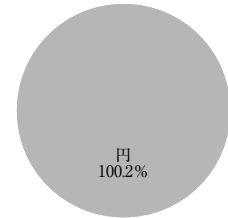
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍(邦貨建)の受益証券を含めております。

純資産等

項目	第62期末	第63期末	第64期末	第65期末	第66期末	第67期末
	2015年1月19日	2015年2月17日	2015年3月17日	2015年4月17日	2015年5月18日	2015年6月17日
純資産総額	31,428,514,776円	33,971,072,789円	29,811,621,599円	36,241,096,391円	43,696,586,150円	51,414,793,788円
受益権総口数	76,841,507,890口	83,615,217,024口	92,538,783,151口	102,374,701,317口	122,218,152,331口	156,186,211,897口
1万口当たり基準価額	4,090円	4,063円	3,222円	3,540円	3,575円	3,292円

(注) 当作成期間(第62期~第67期)中における追加設定元本額は92,134,204,654円、同解約元本額は8,117,807,521円です。

組入上位ファンドの概要

ナチュラル・リソース・ファンド ブラジルリアル・クラス

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2013年3月1日～2014年2月28日)
 当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載していません。

【組入上位10銘柄】

(2014年2月28日現在)

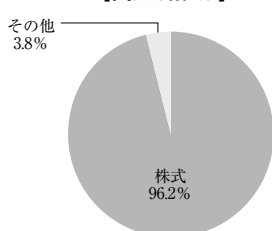
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国(地域)	比率 %
1	BHP Billiton PLC - ADR	株式	アメリカドル	イギリス	5.4
2	Exxon Mobil Corp.	株式	アメリカドル	アメリカ	4.9
3	Rio Tinto PLC - ADR	株式	アメリカドル	イギリス	3.8
4	Potash Corp. of Saskatchewan, Inc.	株式	アメリカドル	カナダ	3.7
5	Monsanto Co.	株式	アメリカドル	アメリカ	3.6
6	Total S.A. - ADR	株式	アメリカドル	フランス	3.6
7	Freeport - McMoRan Copper & Gold, Inc.	株式	アメリカドル	アメリカ	3.6
8	BP PLC - ADR	株式	アメリカドル	イギリス	3.2
9	Chevron Corp.	株式	アメリカドル	アメリカ	3.1
10	Royal Dutch Shell PLC - ADR Class A	株式	アメリカドル	オランダ	2.9
組入銘柄数				69銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

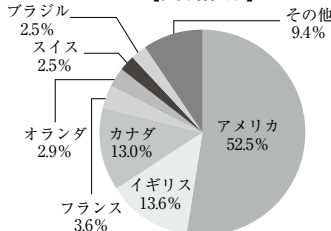
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

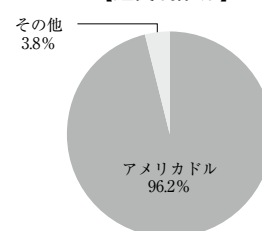
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



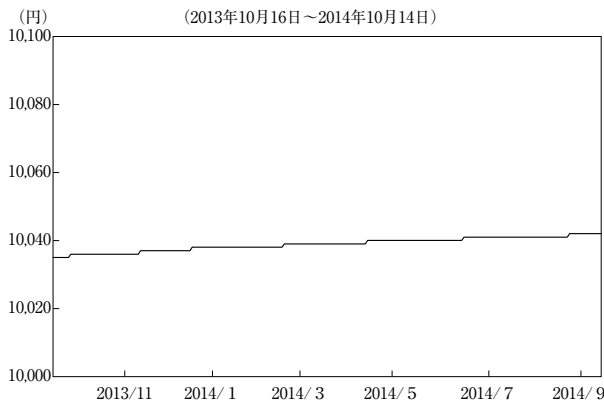
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

マネー・アカウント・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2013年10月16日～2014年10月14日)



【1万口当たりの費用明細】

(2013年10月16日～2014年10月14日)

該当事項はございません。

【組入上位10銘柄】

(2014年10月14日現在)

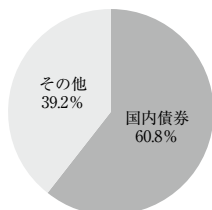
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率 %
1	第479回国庫短期証券	国債証券	円	日本	31.1
2	第481回国庫短期証券	国債証券	円	日本	29.7
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数			2銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

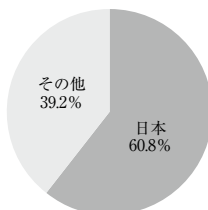
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

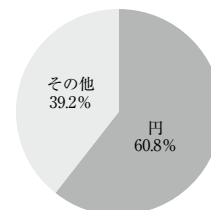
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○東証株価指数 (TOPIX、配当込)

当指数は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。

○MSCI – KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース)

当指数は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

当指数は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA – ボンド・パフォーマンス・インデックス国債

当指数は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

当指数は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

○JPモルガン GBI – EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース)

当指数は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。